

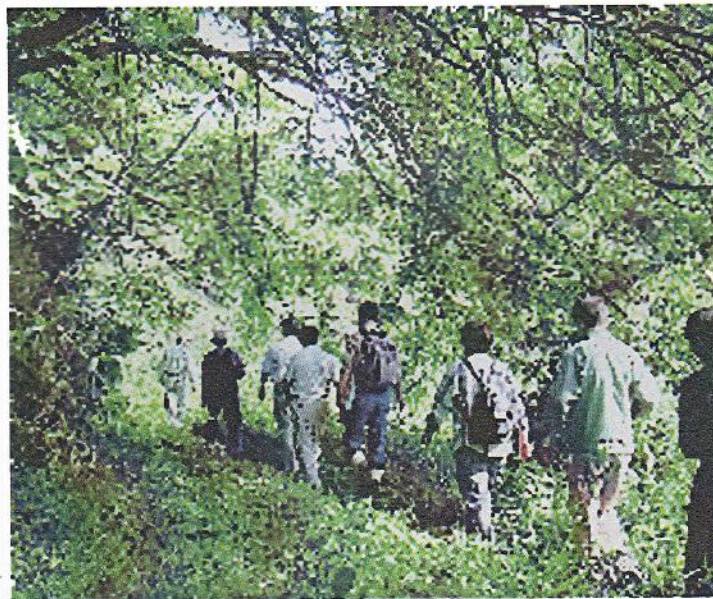


北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

2005 年 7 月 NO.13



ともに肩を並べて

目 次

■ 基金の新しい出発	2
■ 理事長を辞任するにあたって、基金のあゆみ	3
■ 新理事紹介	4
■ 県知事 市長 台峯来訪	5
■ 意見書	6
■ 会計報告	7
■ 山道の手入れ作業のお誘い	8
■ 台峯を歩こう、蛍	9
■ 会員の声	10
■ 活動報告・伝言板	11
■ 台峯の自然便り	12

基金の新しい出発

今後の会のあり方についてのアンケートの結果は、緑地保全のための積立金を保有したままで従来どおりトラストとして存続すべきだ、という意見が多数でありました。理事会はこのご意見を参考にして、当基金の目的である台峯緑地を里山として保存するために活動を続ける方向を選択いたしました。

これからの基金の運営のあり方については、私は基本的には前理事長のなださんの方針を引き継いで行きたいと思っています。法人であるために、存続か解散かについての問題などは一般的には法律や定款とかに拠って限られた20人程度の正会員の判断で処理されてしまいますが、今回、なださんがこういった形式的な法律の枠を超えて、会員全体の意見を尊重されたということは大変素晴らしいことだと思います。まさに市民運動の原点に立って対処されたわけで、基金は今後この会員重視の姿勢を保って行きたいと思っています。

基金の活動の内容については、いままでと異なったものにならざるを得ません。これまでは主に、地権者や行政に対して自然保護の大切さを訴えるために、機関誌やイベントの開催によって多くの人々の賛同を得るための啓蒙的な活動を行なってまいりました。これからは基金が当初から掲げている台峯の里山の保全の実現が目的になりますので、活動の内容は専ら行政との折衝が中心になります。

新理事長 吉野 功

会員の方々とのコミュニケーションを図るために山歩きや会報の発行も引き続き行ないますが、重



要なことは里山的な保存をどのようにして実現するかの手法だと思います。

今後の行政との対応について、私達は台峯緑地保全活動を続けてきた他の団体と話し合い、連絡会を作り行政と折衝することにいたしました。先日鎌倉市公園緑地課が行なった「台峯緑地」公園構想策定についての意見に関するアンケートの内容が情報公開されましたが、その内容は台峯を中央公園のような都市公園として単純に拡大するのではなく、貴重な植物や生物を保全する自然公園として特徴づけるべきだという意見が大多数でした。基金の活動もこのような方向に沿って、着実に進んで行くつもりであります。



理事長を辞任するにあたって

なだ いなだ

台の緑地の前面保全が、決まった機会に、理事長を退任させていただくことになりました。7年間の間、この運動に、一緒に、熱心に取り組んでくださった会員、理事の皆様にお礼を申し上げ、運動のとりあえずの成功を、みなさんと一緒に喜びたいと思います。

一安心ですが、まだまだ、これから、実際にどのような形で保全が進むのか、注意深く見守る必要があります。次の理事長以下の方々に、それを託します。この保全運動の間に、多くの方々の知遇を得たことは、わたしの人生上の幸せな体験だった、と感じています。台の峰と谷を、皆さんと肩を並べて歩いた日々の記憶は、わたしのこれからの生活に、楽しい思い出を恵んでくれることでしょう。



北鎌倉の景観を後世に伝える基金の歩み

- | | | | |
|---|------|----|--|
| ■ | 1998 | 10 | 基金設立総会 |
| | | 11 | 第1回「なだいなだと台峯を歩く」 |
| ■ | 1999 | 3 | 機関誌「北鎌倉の風」創刊 以後ほぼ毎年発行 |
| | | 11 | 北鎌倉台峯トラスト一周年の集い 以後毎年開催 |
| ■ | 2000 | 6 | 第1回講演&チャリティーコンサート「台峯の生命の叫び」
以後ほぼ毎年開催 |
| ■ | 2001 | 5 | NPO（特別非営利活動）法人の認可 |
| | | 6 | NPO 法人化記念シンポジウム |
| ■ | 2002 | 8 | 山道の手入れ開始 |
| ■ | 2003 | 6 | 特別講演 朗読&チャリティートーク
「小津安二郎と美しい日本語、そして北鎌倉」 |
| ■ | 2004 | 12 | 台峯の全面保全決定 |
| ■ | 2005 | 5 | 新理事長就任 |

新理事紹介

新理事長 吉野 功

2000 年より監事を務め、今回理事長となる。

基金の存続にあたって、私に理事長をやらねというお話があったときは少々戸惑いました。私がこの会に参加した動機は、台峯緑地の保全に賛同したというだけではなく、公認会計士も何か社会貢献をすべきであるという日本公認会計士協会の方針に従って何か役に立つことはないかなどと思っていたからです。何十年も台峯を開発から守る運動を続けて来られた人に失礼ではないか、前任者のなだいなださんに較べると全く知名度において見劣りするとかいろいろ考えましたが、とにかく基金を従来どおり存続するためには私でよければと引き受けました。まだ法人化されていなかった基金を苦勞して NPO 法人に組織した経緯もありますので、愛着がなかったわけではありません。いままでは監事として、理事会では第三者的な立場で発言していましたが、これからは当事者なので、自らの目的をもって発言し、行動したいと思います。

新理事 久保 廣晃

1998 年より「歩く会」の案内役を務め、今回理事となる。

地元の方の代行で台峯歩きのガイドをやらせていただいているつもりが、早いもので 7 年になってしまいました。毎回、遠方から駆けつけてくださった方々はもちろん、会場の準備受付や募金活動など裏方で支えてくださった皆様のご支援のもと、台峯保全の日を迎えることが出来たことは大きな喜びです。

観光地から外れた地味な里山歩きに、これほど多くの方が注目してくださったのは、なだいなだ先生のお力が大きかったと思います。また、私の力の至らぬところは、池英夫さんに助けていただきました。さらに、常連参加者の方が、この会をととても親しみやすい雰囲気盛り上げてくださったと感じております。おかげさまで、いつのまにか、台峯を媒介にした不思議な連帯感が生まれていました。この気持ちを大切に、次の段階に臨みたいと思います。生き物の息遣いが感じられる台峯に、訪れた人が静かに癒される台峯に、皆様のご協力これからもよろしくお願いいたします。

新理事 市川 節子

2001 年より正会員、今回理事となる。

中央公園となった東谷戸と台峯は 20 数年前子供たちと一緒に歩いたところ。保全と決まり喜んでおります。

歩く会に参加してほどなく、会の事務局を務められ、昨年亡くなられた小林京子さんに声をかけていただき、お手伝いをするようになりました。それからは小林さんの「高い目標に向かう強い意志」と「私心のない態度」に感銘を受け、ひたすら後をついて参りました。この会のよいところは毎月集って台峯を歩くことです。台峯を歩き、自分たちが何を大切に思うかを確かめ、その思いを他の方と共有できるのですから。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

県知事 市長 台峯来訪



6月1日神奈川県松澤知事が、石渡鎌倉市長とともに台峯を訪れた。県内各地域の実情を把握するための「移動知事室」の一環として来られたが、それまでの背広を白の半そでシャツとチノパンツに着替え、県と市の関係者20名ほどを伴って登場。今まで保全活動が続けてきた複数の市民団体などの歓迎を受けた。

谷戸の池から流れ出るせせらぎのほとり（通称清水が淵）で水棲動物とその環境についての説明に聞き入る。ここは歩く会で久保さんや池さんから私たちも同じようにいろいろ教えてもらう場所です。谷戸の池とその周



辺も堪能し所定の時間を超えてしまい、大急ぎで峯に出た。峯から六国見山、円覚寺方向を見る。（通称老人の畑）保全団体のメンバーからお菓子の差し入れがあり、終始和やかな雰囲気。

中央公園の奥では市長が知事に「目隠しされてヘリコプターで連れて来られたら、ここが鎌倉とは思えないでしょう。」とちょっと自慢げに話しかけ、知事もうなずいた。

しし石付近の水辺で、こどもとお母さん達が遊ぶ。「ザリガニとり、私もこんな風に遊んだ！」と松澤さん。お二人の目が一段と和む。



別れ際「台峯は手を入れすぎないで。」「里山的実質保全してください。」という声があがり、市長は「分かっていますよ。台峯の自然は鎌倉市だけでなく県にとっても大切なもの。皆さんからも知事に援助をお願いしてください。」と返された。長年、台峯の保全に取り組んでこられた他の団体との顔合わせの場ともなり有意義な半日でした。

市川 節子

「台峯緑地」公園構想策定についての意見書

鎌倉市公園緑地課 御中

2005 年 4 月 12 日

NPO 法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

広報かまくら4月1日号で山崎「台峯緑地」公園構想策定にご意見を、との記事が掲載されましたので、当「基金」と台峯との関わり、そこから得た会員の総意として以下の点を要望いたします。

私たちは過去8年間、なだ代表と共に延べ3,000名にのぼる方々と毎月台峯を歩き、かけがえのない自然の営みをつぶさに観察してまいりました。その結果、鎌倉市の英断によってようやく保全が実現した「台峯緑地」は鎌倉中央公園の拡大区域としてではなく、貴重な動植物の生きた宝庫として、里山的現状を残しての保全を目指していただきたいとの結論に達しました。

中央公園が既に整備され舗装された道路や東屋まで完備されている現状と同じイメージで台峯緑地を構想されたとしたら、台峯が現在保有している魅力が失われるばかりか、残された緑地に対する貧困な発想を露呈させることにもなりかねません。

駐車場付きの公園は既に存在しております。今、そこに生息している命の妨げになるような公園にだけにはして欲しくないというのが、実際に台峯を8年間歩き続けて来た私達の総意です。

また「台峯緑地」について何らかの改変・施策を計画される場合には事前に当「基金」への連絡、意見聴取を是非行ってくださるようお願いいたします。

今後「台峯」の里山的保全に向け、行政と一緒にいい知恵をだしあってゆきたいと思っています。

以上

上記意見書は 当基金が4月12日、鎌倉市公園緑地課に提出したものです。鎌倉市公園緑地課が、山崎「台峯緑地」公園構想策定にあたって、その保全に関し意見、要望を募集したのに応えたものです。

他に 39 通もの意見要望が寄せられました。大多数が台峯を中央公園のような人工的な公園として拡大するのではなく、貴重な生物、景観を保存する自然公園として残して欲しいという意見でした。

会計報告

16年度決算(平成16年4月～17年3月迄)

特定非営利活動法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

科目	16年度予算	16年度決算	予算残高	摘要
取 入				
個人会費	760,000	635,000	125,000	本人4221名家族146名合計567名
団体会費	18,000	17,000	1,000	7件
セミナー収入	700,000	586,000	114,000	イベント、チケット売上げ
民間助成金	100,000	14,326	85,674	店舗募金箱
寄付金	500,000	766,187	-266,187	42件
街頭募金	50,000	28,190	21,810	円覚寺前にて3回他
機関誌収入	250,000	133,700	116,300	2号、3号、4号、5号合計296冊
受取利息	8,000	17,076	-9,076	鎌倉市債利息¥3,800他
雑収入	30,000	17,680	12,320	絵葉書及び本売り上げ収益
合計	2,416,000	2,215,159	200,841	
支 出				
(緑地の保全・管理事業)				
整備作業費他	45,000	126,154	-101,154	道具小屋、他
消耗品費	55,000	9,744	45,256	鎌研磨代他
賃借料	11,000	12,000	-1,000	道具小屋、借地料1年分
(普及・研修・事業費)				
通信費	150,000	137,800	12,200	会員宛会報その他送付
旅費交通費	53,000	55,000	-2,000	チャリティ出演者交通費
印刷製本費	30,000	43,894	-13,894	会報2回及び山歩きピラ12回その他
諸謝金	60,000	59,710	290	関係者謝礼
事務消耗品費	50,000	103,102	-53,102	チャリティ、山歩きピラ用紙、他
委託費	230,000	168,000	62,000	チャリティ企画費
賃借料	36,000	63,000	-27,000	第6回集い時の会場費を含む
損害保険料	8,800	7,800	1,000	山歩き保険料
雑費	35,000	48,563	-13,563	チャリティ食事代
(広報・出版事業費)				
通信費	55,000	108,912	-53,912	会員宛機関誌送送料、他
印刷製本費	500,000	1,955	498,045	機関誌6号17年3月までに発行予定
編集費	50,000	20,000	30,000	機関誌5号
事務消耗品費		6,540	-6,540	インク代
諸謝金		23,150	-23,150	ホームページ作成謝礼
(交流・協力事業費)				
通信費	5,000	1,790	3,210	日本トラスト協会
負担金	50,000	50,000	0	日本トラスト協会
民間助成金	3,000	18,480	-15,480	NPO賛助会費他
雑費	10,000		10,000	
(管理費)				
通信費	75,000	76,050	-1,050	振込料、会費納入依頼、会員証送付
事務消耗品費	30,000	67,340	-37,340	コピー代、用紙代、封筒他
賃借料	36,000	36,000	0	山ノ内公会堂17/3月迄使用料
会議費	10,000	31,200	-21,200	総会時昼食代16名
交際費		35,000	-35,000	お見舞い及び供花料
雑費	43,000	56,794	-13,794	事務局移転登記料他
合計	1,630,800	1,367,978	262,822	

	前期より繰越	17/3月末残高	摘要
保 有 資 産			
現金		0	
当座預金	1,000,089	668,950	郵貯
普通預金	529,765	466,646	郵貯¥283,711 東三¥182,935
定期預金	11,191,161	12,000,000	郵貯¥9,624,186東三¥2,375,814
鎌倉市債	1,000,000	1,000,000	大和証券鎌倉支店
合計	13,721,015	14,135,596	
負 債			
未払金	432,600	0	機関誌5号発行費(16年6月支払)
差引正味財産		14,135,596	
合計		14,135,596	

緑積立金；

13,000,000円

山道の手入れ作業のお誘い

「たまには皆さんに歩いていただかないと、道が消えてしまいますよ」、20年ほど前、初めての台峯歩きで、地元の方に言われたことを思い出します。当時は今より道が荒れていて、笹の中を朝露に濡れながら泳ぐように歩いた記憶があります。

そんなわけで、この会の台峯歩きが始まった時、心配は道のことでした。とりあえず、歩く会の前日に、安全確認を兼ねて道の整備を一人で始めてみました。雷雨の夕方、稲妻に照らされながら倒木を解体撤去した思い出が忘れられません。

数年後、当時の事務局長だった故小林京子さんのご尽力で、皆さまにお手伝いいただけるようになり今日に至っております。

毎月第三日曜の前日に、午前中二時間ほどの作業です。一汗かいたところで、台峯のハンノキを見ながらお茶を飲んで解散となります。道具はササを刈るための刈込バサミが必要で、カマ（厚いもの）、ノコギリもあると便利でしょう。長袖、長ズボンで、帽子、軍手、タオルを忘れずにご参加ください。冬はともかく、夏は毎月手入れをしませんと歩けなくなってしまうので、ぜひ、ご協力をお願いいたします。

里山の保全活動は、まず道の手入れから始まります。今の台峯を一言で表すなら、見捨てられた里山といったところでしょうか。人が歩き、手を入れることで、自然も今まで以上に活気づいてくるはずです。

最近は各地で里山の保護活動が話題になっていますが、保全の手法に関しては様々な考えがあるので、人まねではない、現在の台



峯に則した方法を探っていかなければならないでしょう。道の手入れも、単なる作業ではなく、自然保護活動の一環であることを忘れてはなりません。

今のところ、道沿いのササとアオキ、ツル草を刈ることが中心で、無差別に植物を刈り取ることは控えています。自分たちが刈った跡にどんな植物がどれだけ生えてきているか確認しながら作業していただきたいと思います。苦勞してササを刈った跡にスミレの芽生えを発見した時の喜びは、汗を流した人でなければわからないでしょう。

要は、観察しながらゆっくり楽しく作業していただければ良いわけです。一見、非能率的に思えるかもしれませんが、生態系に配慮しながら手入れの出来る人を育てる方法なのです。手入れするだけなら業者や一般のボランティアでも出来ますが、台峯に必要なのは、台峯に愛着をもちながら丁寧に作業してくれるボランティアなのです。作業する人に自然を見る心があるかないかが問われるでしょう。将来、一般のボランティアを受け入れられるように、今から核になる人を養成しなければなりません。作業と観察を車の両輪にして、台峯と共に歩いてくれる方々のご参集をお待ちいたしております。 久保 廣晃

台峯を歩こう

「雨が降ったらどうしよう」「夏は暑いし疲れる、又、冬は寒く何も無いと思うので7・8月、12・1月は休んだらどうか？」決して若くない当基金のメンバーからは自然にそんな声が上がりました。その時、ガイド役をお願いしていた野鳥の会の会員（現理事）久保さんより「1人でも参加する人が有れば、私は構いません。自然はいつでも生きて動いています」「続ける事が大事だと思います」そんな言葉に後押しをされ我々も毎月1回第3日曜日に「なだ いなだと台峯を歩く」会を実行する事をそれなりの「勇気」を持って決定しました。

「開発予定地台峯」29ヘクタールをとにかく行って、見て、知ってもらおう。その為には一人でも多くの人達の参加を得たい。その人達が台峯の素晴らしさに触れた時、必ず我々トラスト運動の大きな力になり世論をそして行政を動かす力になる。そんな思いをもって「今月は何人位来てくれるだろう」「雨は大丈夫か」等々の心配をしながら続けて来ました。今回で82回延べ参加人員3500人の人達が台峯を訪れました。昨年12月の市の保全決定に大きな影響を与えたのではないかと確信しています。

しかし「中央公園の拡大区域」としての位置付けに大きな不安を感じます「里山的実質保全」を目指して来た私達のイメージは現中央公園とは全く異なります。人間中心から動物、植物、鳥、魚、昆虫等々そして人が一緒に生きる台峯を残したいと考えます。今台峯は蛍が舞い、ウシガエルが鳴き、クマノミズキ、テイカズラが白い花を咲かせオニシバリが赤

い実を付けています。私たちの目的を実現させる為今後も台峯を歩きます。

山道の整理共々皆様の御参加を心よりお待ちしております。
望月 晶夫

蛍

6月26日にホテルを見る会を行いました。今年はずい分多くのお仲間が参加して下さいました。あぜ道に蛍が乱舞していた昔を知っている私でさえ、蛍というと何か特別な気持ちに誘われるのですから、昼間の台峯とは違う暗闇に明滅する光には皆さん感激されたようです。でも昨夏、何度も襲来した台風の故で、今年は人の数のほうが多かったようで残念でした。蛍ってデリケートな生きもののなのですね。

来月は平家蛍が出るはずと伺いながら、それにしても源氏蛍、平家蛍とはいつごろから呼ばれるようになったのだろうと考えました。

「万葉集」に蛍は歌われましたし、“物思へば沢の蛍もわが身よりあくがれいづる魂かとぞ見る”の絶唱を残した女性歌人もいました。皆さんがご存知のように「源氏物語」の「蛍」の巻では、玉鬘に対して揺れる光源氏の心が、急に放された蛍の光に託して効果的に描かれています。蛍はずい分日本人の心を深くとらえてきたようです。でもそのころは今のようには呼ばれていたはずはありません。ともかく、源氏といわれ平家といわれる蛍に鎌倉の地は最もふさわしいのかもしれませんが。台峯がいつまでも蛍の棲息する場所であるよう願わずにはられませんでした。

和 泉 あき



回想・初めての台峯と・・・

里山の自然観察にドブプリはまって過ごした多摩丘陵を後に 20 年ぶりに鎌倉に戻って来た。まずやらねばならないのは自然観察に適した身近なフィールドを見つける事である。詳細な地図を見ながら探し出したのが梶原の北側にある谷戸、池もあるみたいだし面白そうだ。引越しがすんだ日曜日、地図を片手にさっそく出かけたが地図に記されている道は無く谷戸に入る事が出来ない。こうなればお得意のヤブコギをやるまでだが竹藪を潜り抜けた所で湿地に行く手を阻まれた。長靴ではないし、戻るか、湿地を強行突破するか、それとも座して死を待つか・・・。一人思案していると湿地の先に人の気配がする。助かったと思い、潜るのも構わず湿地を突っ切ると一人の男性が居た。双眼鏡を覗いて野鳥の観察をしているようだ。すべてでは無いが自然観察を趣味とする人には変なところがある。初対面の人に会った時、顔を見る前にその人の双眼鏡やらカメラなどの機材に目が行ってしまうのだ。私もその類なので彼の双眼鏡にまず目が行った・・・その時の衝撃は一生忘れまい！双眼鏡は本来黒く塗装されているのが大半だが、彼の双眼鏡は塗装がはげて大部分が銀色、今だ嘗てここまで使い込んだ双眼鏡を私は見たことが無い！私の双眼鏡もかなりくたびれているが彼の双眼鏡は常軌を逸している。見た目私と同じぐらいの年齢とお見受けするがこのようなお人に粗相があってはならない、厳しい人間界の掟である。

もうお分かりであろう、彼こそ【台峯をあるく会】の案内人、久保廣晃氏であった。あれから早くも 7 年・・・明日は晴れそうだ、最新式の双眼鏡を持って台峯に行くとしようか・・・。

池 英夫

先月刈られていた笹が、今月しっかりと育っていておどろかされました。カマキリ、カミキリ、クワガタなど、こども達もよく分かる虫たちの登場で子供達と一緒にもり上がられて、楽しい時間をすごせました。来月も楽しみです。

田中幸博

クワガタがさわられてよかった。やまあるきのしかた。やまのなかでとんぼをみてよかった。やまあるきでいろんなむしをみつ

けられてよかった。 田中きょうすけ

カマキリのたまごが、たくさん木の下にはさまっていた。あわみたいだった。クワガタをつかまえてもっていたら、かまれていた

かった。 田中一希

クワガタこわかった。

田中 怜

久方振りのウォーキング楽しく歩けました。膝を痛め参加させていただけないかと悲観して居りましたのに・・・六月の梅雨時でむし暑いけど思いきり汗を流し、鳥の声が心地良く緑の木々が目にしみました。 影山 英子

ありがとうございました。また来ます。

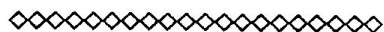
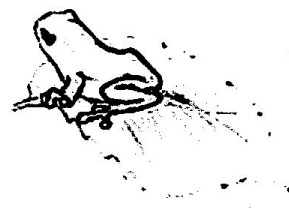
杉田

みどりしじみ、山サナエが、最高でした。めったにみられないし、見ても気付かなかったと思うのでこの会に感謝です。 田澤

遠方よりの参加でしたが、鎌倉の里山をはじめて目にして、これは大切にしなければと思いました。細かな説明も解り易く、地元の方の努力が伝わりました。これは鎌倉だけでなく関東一円里山を残す事の大切さを広く伝えていっていただきたいと思います。

森田・古賀

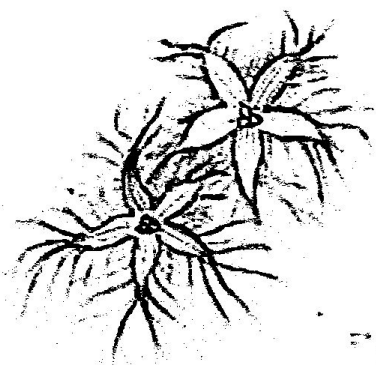
ミドリシジミやヤマサナエなどめずらしい昆虫が観察でき、勉強になりました。谷戸で出会った若者たち(釣り?)が気になります。谷戸歩きのマナーを多くの人に知ってもらうことも重要になると思いました。 無記名



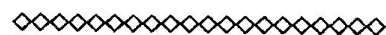
活動報告

(2005 / 3月～7月)

1. 定例理事会 2/6・3/6・4/3・5/8・
6/5・7/3
臨時理事会 4/28
定例総会 5/8
2. 台峯を歩く 2/20・3/20・4/17・5/15
6/19・7/3
3. 山道整備作業 3/19・4/16・5/14・
6/18・7/16
2/19 (雨天中止)
4. 県知事・市長 台峯来訪 6/1
5. 会報 12号 3月発行
6. 旧小泉邸跡地マンション建設問題への関わり
昨年10月～4月末
7. 台峯保全連絡会。
7/17 顔合わせ 中央公園、
7/30 第1回打合せ 大船NPOセンター
8. ホタル観察会
6/26、谷戸の池周辺で実施 47名参加



カラスウリの花



伝言板

新規会員募集中

年会費 年2,000円

会費及び寄付金の振込先

郵便口座番号 00250 - 2 - 20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

定例行事

1. 山歩き

毎月第3日曜日 (8/21・9/18・10/16・11/20・12/18)

集合時間 午前9時 解散時間 12時頃

集合場所 山ノ内公会堂(東慶寺手前)

2. 山道の手入れ

毎月山歩きの前日の土曜日

(8/20・9/17・10/15・11/19・12/17)

時間 午前10時～12時

集合場所 山崎小学校裏の道路上

会報13号

発行日 2005年7月31日

発行者 NPO法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局〒247-0062 鎌倉市山ノ内704-9

TEL 0467-47-9892

電子メール moc@kamakuranet.ne.jp

ホームページ http://www.kitakamakura-trust.org/

写真提供 池英夫・石原 瑞穂

挿絵 石原 瑞穂

台峯の自然便り 暑さに負けずに咲く夏の草花たち 写真 池 英夫



コヒルガオ 日当りの良い道端で見かけるツル草。



ヘクソカズラ お灸の痕のような花なのでヤイトバナとよばれる。



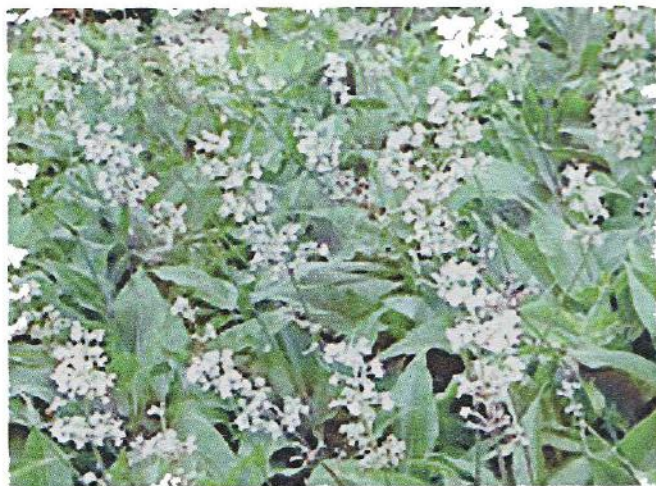
ツルボ
日当たりの良い
土手に咲く
草刈をしないと
花が咲かない。



センニンソウ 日当たりの良い土手に咲くツル草。種に
仙人の髭のような白い毛がある。



ナンバンギセル 花がパイプ（南蛮煙管）に似ている。
ササやススキの根に寄生する。
台峯では9月頃よく見かける。



ヤブミョウガ 杉林の下などに群生する。夏に白い花
が咲くが、実（青黒い）もよく目立つ。